

財務資本戦略

戦略的成長投資、適正な財務体質を確保した 株主還元の充実

2022年度業績サマリー

2022年は激動を極める事業環境にグローバルで対応し、フレキシブル・アジャイルな供給マネジメント、プレミアム領域の拡売・シェアアップ、戦略的価格マネジメントなどを強化し、為替の追い風もあり、当社初の4兆円台を達成しました。調整後営業利益も4,826億円と2021年から大幅な増収増益を達成することができました。

2023年度業績予想

プレミアムタイヤ事業についてはプレミアムへのフォーカスを強化するとともに、ソリューション事業の成長を加速し、為替影響を除き前年比107%の増収を見込んでいます。2023年も「実行と結果」に拘ることで、調整後営業利益で約5,100億円、為替影響を除き前年比116%の増益を計画しています。最重要経営指標であるROICは10.5%、調整後営業利益率は12.3%を見込んでいます。

財務資本戦略の基盤

当社グループはポートフォリオ経営を実現させる財務戦略基盤の強化を進めており、事業ポートフォリオごとの財務的評価や撤退マネジメントを含む戦略的な意思決定を仕組みとして支えることが不可欠と考えています。

2021年1月に個別投資案件をグローバルで管理するグローバルコントローリング機能を設置し、案件ごとに投資効果などを正しく評価できる体制を整えました。M&Aについては、Global CEOをリーダーとし、各事業・地域のトップマネジメントをメンバーとするM&Aステアリングコミッティを設置したことで、対象ごとの案件の議論と厳正な評価、そしてスピー

ディーな意思決定が可能となっています。設備投資についてもGlobal CFOをリーダーとしたコミッティの設置により判断を強化しています。戦略リソースの投入についてはROIC等を用いた総合的な評価を徹底し、資本コストと事業別・地域別のリスクを考慮したハードルレートを設定しています。また、社内カーボンプライシングの活用を強化しており、投資の判断においてもサステナビリティの要素を組み込んでいます。

このように適切な投資の精査・評価を実施した結果、2022年度のROICは前年度の9.0%から9.4%へ改善しました。

キャピタルアロケーションに関しては、2030年に向けた長期アスピレーションを道筋として、新たな社会価値・顧客価値創造を両立し、競争優位を獲得するための戦略リソース投入に必要な内部留保を確保しつつ、「適正な財務体質の維持」と「株主還元の充実」を目指します。

適正な財務体質の維持

現在の信用格付け(2022年:Moody's:A2, S&P:A他)を維持する健全な財務体質を確保するためにネットデットエクイティレシオは0.3以下、資本効率のバランスを考慮し自己資本比率は60%レベルを目安とします。

株主還元の充実、機動的資本政策

- ・ 配当方針:安定的且つ継続的な配当額向上
- ・ 配当性向の目安:22年40%→2030年50%レベルへ
- ・ 戦略リソースに対する内部留保と財務健全性から総合的に判断し、自己株式取得も機動的に検討します。

今後も投資家をはじめとするステークホルダーの皆様との対話(エンゲージメント)や情報開示の充実を通じて、持続的な企業価値の向上に努めていきます。